

キリストの光のキリスト

気を
落とさずに

年間第29主日(世界宣教の日) 10月21日(ルカ18:1-8)

「神父さまはお祈りしないでくださいよ。神父さまがお祈りすると必ず雨が降るんですから」：わたしをまるで雨ごいの祈とう師みたいに言う。

隣接する幼稚園では、大きな行事が近づくと職員も保護者もこのように言う。みんなを安心させるために「大丈夫。絶対に祈らないから」と言わざるを得ない。

冗談とは思っているが、中には本気でわたしにそう願う人もいるようだ。(実は、雨が降らないようにとわたしが願う度合いに応じて実際に雨が降るという体験をしている)

運動会があった。願うことは皆同じ。いい天気でありますように：。「神父さまはお祈りしないでくださいよ」と言われた。想定内。言われるたびに「はい、分かりました。絶対に祈りません」と答

える。

かくして運動会は最高の天気恵まれた。ほどよく曇り、ときどき秋の日差しで園庭が照らされる。さわやかな風が気持ちいい。時折雨が降りそうな様子になっても運動会は円滑に進められる。終



わって片づけ。テントをたたんだとたんに雨が降り出した(神父さま、やっぱり少し祈ったでしょ、と言われた)。それでも、だれでもが「いい天気」と思うような「最高の天気」だった。

天気になってほしい時がある、以前はわたしも神に祈ってい

た。雨が降りませんように…と。
今では一人で隠れて「神さまの望まれるようにしてください」と遠慮がちに何度もつぶやいている。

望み通りになれば神に感謝する。
それで終わり。そしてまた「お願い」をする。願いが聞き入れられなかったら、文句を言うか、心のどこかで、やはり神なんかいないとつぶやく。

イエスは言われた。気を落とさずに絶えず祈るようにと。一人のやもめと裁判官のやり取りのたとえを話して、神はいつまでも放っておかれることはなく、速やかに裁いてくださると教える。最後に言う。「しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか」。

神が望まれるようになりますように、というのには神まかせの祈りではない。神の望みが見えてくると、同時に、そのためにわたしに何ができるかが見えてくる。

かつてイエスは祈りの言葉と祈りの仕方でも教えられた。天の父の望みが実現するように祈りなさい。まず神の国とその義を求めな

き。そして、見えたことを実行する力が与えられる。こうして神の望まれる国が少しずつつくられていく。気を落とすことはない。人の子が来るとき、このような信仰が生

き。まず神の国とその義を求めなさい。そうすれば、他のすべてのものは一緒に与えられる…。

今日も、「主の祈り」をぶつぶつとつぶやく。

いろいろなことを神に願うのだから、多くの場合、自己本位。こうな

隠れて…。

ってほしいと願い、その通りになれば、神はすごいという。自分の

今週の福音

22 日・月	ルカ	12・13—21
23 日・火	ルカ	12・35—38
24 日・水	ルカ	12・39—48
25 日・木	ルカ	12・49—53
26 日・金	ルカ	12・54—59
27 日・土	ルカ	13・1—9

(山元眞二福岡教区司祭／カット＝高崎紀子)